

令和 8 年度

NICU における在宅移行支援者育成研修

—研修概要—

主催

一般社団法人日本新生児看護学会

Ⅰ 本研修を開催するにあたって

周産期医療・看護の進歩とともに NICU で出生した新生児の救命率は向上しています。一方で、NICU における長期入院児は増加し、退院後も、多くの子どもは、医療的ケアや*1、他、成長発達していく過程において、様々な支援を必要としています。

そういった対象が、退院後も家族としての関係性を構築しながら、地域において安全に安心して生活していくためにも、子どもの出生時から支援する、NICU における看護職の役割はとても重要です。

診療報酬においても、2016 年度改定で、退院支援加算 3 が新設され、以降入退院支援加算 3 と名称が変わり、2020 年度には、この加算を取得する施設基準要件として、担当する看護職が適切な研修をうけていることが明記され、現在、公益社団法人日本看護協会等において研修が行われています。

厚生労働省等においても、様々な医療的ケア児等とその家族に対する支援施策が示されています。しかし NICU 看護職が学ぶ機会が十分整備されているとはいえないのも現状です。

そこで、本学会においても、2025 年度より、NICU から在宅への移行支援のさらなる質の向上にむけて、専門的な知識・技術を持ち実践できる看護職の育成をめざして、本研修を開始いたしました。

具体的には、退院後の家族の生活を具体的にイメージできること、関連職種の役割を理解し、お互いの専門性を活かした連携の実践、そして、生まれてからの NICU におけるケア、例えばファミリーセンターケアの実践そのものが退院後の家族の生活の質に大きく関わることなどを理解していただきたいと考えて企画しております。(研修プログラム詳細は別紙をご参照ください)

本研修は、診療報酬上の退院支援加算 3 の施設基準に定められている「小児患者の在宅移行に係る適切な研修」に対応しています。

同時に、すでに専任としてあるいは、スタッフとして退院支援に関わっている NICU の看護職にとっても、家族のケアや、退院支援に関して必要な知識を学びほぐし、学び直す機会としても活用できるのではないかと考えております。

子どもを含めた家族への支援の質向上、そして診療報酬の算定のためにも、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

*1 医療的ケア児とは、医学の進歩を背景として、NICU（新生児特定集中治療室）等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のことであり、全国の医療的ケア児（在宅）は、約 2 万人（推計）である。(<https://www.mhlw.go.jp/content/000981371.pdf>)

今年度は、すべて Web での開催となります

昨年度開催時には、北海道から九州まで、全国からご参加いただきました。

地域や役割にかかわらず、より多くの皆様が参加しやすいように、研修の開催方法を検討し、

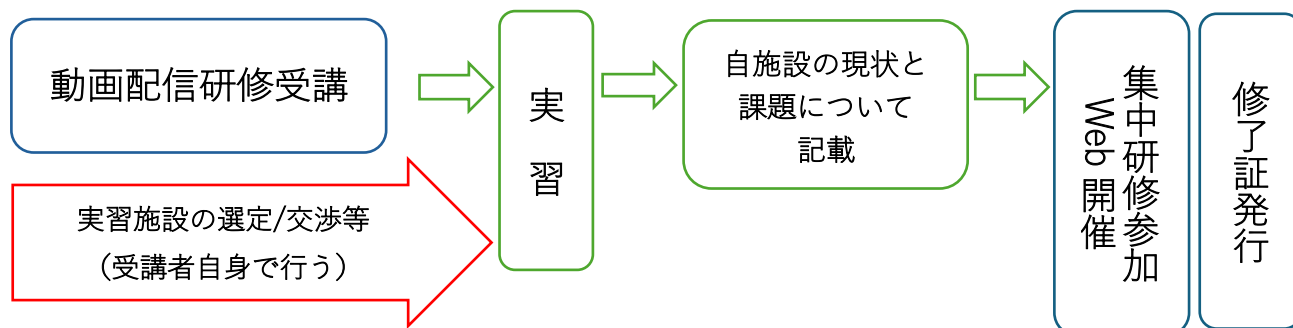
すべて Web による研修に変更いたしました。

集合での研修はありませんが、1 日集中研修では、ワークなどを取り入れることで、ネットワーク作りやそれぞれの施設の取り組みを共有できる機会を作っていきます。

研修名	NICU における在宅移行支援者育成研修
研修目的	NICU から在宅への移行支援に必要な専門的知識・技術を有する看護職の育成
研修目標	① 在宅での生活（子どもとの生活、その中でのケアなど）について具体的にイメージできる ② ①に基づいた支援を自立して実践することができる ③ ②のための、自施設の現状と課題、それについての行動計画を作成できる
開催方法	動画配信および Web による集中研修（1日） 訪問看護ステーション等での実習（参加者自身で対象施設を探し実施する）
研修内容	別紙参照
応募者の要件	新生児集中ケアに3年以上携わっている看護職
募集定員	100名
受講料	会員 11,000円 非会員 22,000円

II 研修の概要

III 受講決定後の研修受講のながれ



1. 動画配信研修の受講

1) 受講期間 令和8年7月1日（火）～2026年11月末日（予定）

*具体的な配信期間については、受講決定後に改めて連絡する。

2) 受講方法

- ・上記期間内に、本学会ホームページより、動画にアクセスして受講する。
- ・受講の順序は問わないが、できるだけプログラムの順に視聴することが望ましい。
- ・1つの講義について、複数回に分けて視聴することもできる。
- ・1つのコンテンツ毎に、アンケートを入力、送信する。

※質問があればアンケートに記載する。集中研修時にとりまとめて回答する。

3) その他注意事項

- ・1つのコンテンツについて、分割して受講しても良い。

- ・ 配信期間中は、何度でもコンテンツの視聴をすることができる。
- ・ 受講期間内に全コンテンツを受講終了できない場合は、原則集合研修には参加できない。
研修修了証も発行されない。

2. 事前課題1 実習 ※実習の依頼や調整は、研修参加者自身が自施設の上長等と相談して行う。

○訪問看護師との同行訪問

- 1) 所属長とともに、実習を受けてもらう施設を決める。
* 依頼状の文例（別紙4）必要時使用。
- 2) 実習計画を作成する（別紙1）
- 3) 実習計画に基づき、訪問看護師による、NICU から退院した子どもの訪問に同行する
実習は、動画配信研修をすべて受講した後が望ましい。
- 4) 実習報告書（別紙2）を記載する。必要時所属長の確認を得る。
- 5) 実習報告書は、集合研修時に持参、研修終了後提出する（必要時コピーをとる）

○上記同行訪問以外

訪問看護師との同行訪問ができない場合は、下記方法（例）で、

NICU から退院した後の家族の話を聴く機会を得る

退院後の外来等で面談する。

退院後の親の会など退院後に家族が集まる場に参加し、個別に面談する。

- * いずれの場合も、所属施設及び必要時演習を行う施設の承諾を得た上で、
面談するご家族ご本人にも、実習の目的や話してくれた内容の取り扱い等について
説明して了承を得る。

- * 計画書/報告書は、同行訪問用の用紙に記載する。

3 事前課題2 自施設における在宅移行支援の現状と課題について

- 1) 規定の用紙（別紙3）に沿って、自施設（自部署）の現状と課題について記載
- 2) 記載した用紙は集合研修時に持参、研修終了後提出する（必要時コピーをとる）
- 3) 記載上の留意点
 - * 所属部署の管理者やスタッフと検討した上で記載することが望ましい
 - * できるだけ、根拠のある、データ等に基づいた内容を記載する

4 事前課題1, 2. は、下記5の前に提出する（提出方法の詳細については後日提示する）

5 Web による集中研修

日 時 : 2026年12月18(金) 9時20分~17時00分(予定)

研修方法 : Web研修 (Zoomシステムの使用を予定)

プログラム : (別紙参照)

※終了後、修了証を発行する。

IV 研修プログラム

研修プログラムⅠ 講義（動画配信）

研修内容	講師（敬称略）	時間
NICU からの在宅移行支援のあり方 ・本研修の意義・目的 ・NICU から退院後も支援が必要な子どもとその支援の重要性 ・社会の動きや国の施策、法律等	一般社団法人日本新生児看護学会 理事長 内田美恵子	45
NICU からの在宅移行支援における看護職の役割 ・ファミリーセンタードケア ・親子関係発達の支援、 ・退院後の生活への支援他	聖隷クリストファー大学 看護学部 教授 室加千佳 社会福祉法人聖隷福祉事業団 総合病院聖隷浜松病院 看護部次長 CQI 室副室長 中村典子	45
NICU からの在宅移行支援に関する現状と課題 ・新生児医療の現状と課題 ・NICU 退院後も支援が必要な子どもの現状と課題 ・看護職に求められること	埼玉医科大学総合医療センター 小児科名誉教授 兼 客員教授 田村正徳	90
在宅移行後の継続ケアに必要な知識-1- ①退院後に活用できる社会的資源、福祉サービス ②退院後の支援に関わる各職種との役割と連携	①東京都中央区立子ども発達支援センター 受託：社会福祉法人 山鳥の会 主任相談支援専門員 医療的ケア児コーディネーター 稲垣 藍 ②日本プライベート看護株式会社 訪問看護ステーション ナースであんしん Child care team team リーダー 有馬夕紀 埼玉医科大学総合医療センター 小児診療看護師 小泉恵子 ① に同じ 稲垣 藍	100 ① 50 ② 50
在宅移行後の継続ケアに必要な知識-2- 災害対策（減災）について： 退院時に必要な知識と準備	埼玉医科大学総合医療センター 小児診療看護師 小泉恵子	20
日本看護協会版 「NICU/GCU における小児在宅移行支援パス」の活用	ワーキンググループ委員	30 *
NICU における在宅移行の実例 一事例報告	地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 NICU 新生児集中ケア認定看護師 松村好野	30

* は要件の時間には含めず

研修プログラムⅡ Webによる集中研修

	研修内容	担当	時間
9:20～	オリエンテーション 委員紹介 動画視聴時にあげられた質問等への回答	ワーキンググループ委員	30*
10:00～ 10:50	【演習】 事前実習における学びの共有 ・体験から気づいたこと 疑問点 ・ケアの振り返り、今後にどういすすかなど	ファシリテーター	50
10:50～ 11:00	休憩		
11:00～ 12:30	【講義と演習】 在宅移行支援に伴う倫理的問題への対応方法 ・在宅移行に伴う倫理的な課題 ・看護職として必要な支援とは ・事例	【講義】 奥寺さおり 【演習】 ファシリテーター	90
12:30～ 13:30	昼休憩		
13:30～ 14:10	【演習】 模擬退院支援カンファレンス 多職種による模擬退院支援カンファレンス場面の再現 再現場面の振り返り/各役割についての意見交換	株式会社 TOMATO 訪問看護ステーションベビーノ 代表取締役 所長 平原真紀 東京都中央区立子ども発達支援センター 受託：社会福祉法人 山鳥の会 主任相談支援専門員 医療的ケア児コーディネーター 稲垣 藍 日本プライベート看護株式会社 訪問看護ステーション ナースであんしん Child care team team リーダー 有馬夕紀	40
14:10～ 14:20	休憩		
14:20～ 16:30	自施設における在宅移行支援について 事前課題の共有 意見交換 NICU からの在宅移行支援における看護職の役割をふまえ今後の実践計画について考える	ファシリテーター *休憩 10分（グループ毎に）	120
16:30～ 17:00	全体のまとめ	ワーキンググループ委員	

*は要件の時間には含めず

V 修了証

すべてのプログラム修了者に、集合研修終了時に修了証を発行する。

【NICU における在宅移行支援者育成研修】

別紙 1

実習計画書

実習場所	施設名： 所在地： 施設長（看護管理者）氏名：
実習日時	2026 年 月 日 時 ~ 時
実習の目的	
実習の目標	
実習計画	
その他	
	記載日 記載者所属 氏名

書式は、必要時修正可。A4 一枚に記載すること。

【NICU における在宅移行支援者育成研修】

別紙 2

実習報告書

実習場所	施設名： 所在地： 施設長（看護管理者）氏名：
実習日時	2026 年 月 日 時 ～ 時
実習の目的	
実習の目標	
実習の内容	
学んだこと 今後 どう活かすか	
その他感想	
	記載日 記載者所属 氏名

書式は、必要時修正可。A4 一枚に記載すること。

【NICU における在宅移行支援者育成研修】
NICU における在宅移行支援に関する現状と課題

別紙 3

施設の概要	施設名： 病床数： NICU GCU 総合周産期 地域周産期 その他（ ） 看護職員数： 看護職の平均経験年数： 総経験年数 年 NICUGCU 経験年数 年 入退院支援加算 3 算定の有無 その他必要な情報を記載
あるべき姿	在宅移行への支援を行うことで、退院～それ以降、支援する家族（子どもを含む）がどのようになって欲しいと思うか
現状の分析	
自施設の課題	あるべき姿を実現するために、現状とのギャップをなくすために、どのようなことを取り組んでいく必要があるか
現在取り組んでいること	
今後取り組んでいきたいこと	
	記載日 記載者所属 氏名

書式は、必要時修正可。A4 2 枚以内で記載すること。

施設名
役職 氏名 様

所属施設名
依頼者役職 氏名

訪問看護ステーションにおける NICU 退院後の家族支援に関する実習のお願い
(依頼)

拝啓 残暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より大変お世話になっております。

このたび、日本新生児看護学会開催 小児在宅移行研修の事前課題として、訪問看護ステーションにおける実習が課せられました。当院といたしましても、NICU における在宅移行支援の質を向上するためにも退院後の家族の実際を知ることが重要であると考えており、ぜひ貴院（訪問看護ステーション）における実習をお願いしたく、ご多忙な中大変恐縮ではありますが、ご承諾いただけますよう、お願いいたします。

敬具

記

- 実習目的
- ①在宅での生活（子どもとの生活、その中でのケアなど）について具体的にイメージできる
 - ②①に基づいた支援を自立して実践することができる
 - ③②のための、自施設の現状と課題、それについての行動計画を作成できる

実習期間
実習者

連絡先●●●●●

依頼する際の文例です。この書式が必須ではありません。
依頼内容や研修の目的などは、あくまでも例となります。
必要時 ご所属の状況に合わせて修正してご使用ください。